

# 産業環境委員会報告資料

令和5年9月27日

報告事項件名	頁
(1) 第三次足立区環境基本計画改定版指標の進捗状況について . . . . .	2
(2) 区施設における二酸化炭素排出量とごみ量について . . . . .	23
(3) 新環境学習施設の事業内容及び委託事業者選定にかかるプロポーザルの 実施について . . . . .	25
(4) 区内施設における令和5年度上半期のマイボトル用給水機の設置状況について	26
(5) 「A I を利用した食品ロス削減実証事業」参加者の決定及び事業の実施について	27
(6) モデル地区におけるプラスチック分別回収事業実施に伴う資源化委託事業者 選定にかかるプロポーザルの実施について . . . . .	28
(7) カラス対策の進捗状況について . . . . .	30

(環 境 部)

# 産業環境委員会報告事項

令和5年9月27日

件名	<b>第三次足立区環境基本計画改定版指標の進捗状況について</b>						
所管部課名	環境部環境政策課						
内容	<p>第三次足立区環境基本計画改定版の指標について、令和4（2022）年度実績の数値がまとまったので、その概要を報告する。</p> <p><b>1 2022年度の実績</b></p> <p>表の2022年度実績の下に記載のある（目標達成率）は2024年度目標に対する達成率を表す。</p>						
			指標と単位 （◆：低減目標）	2021年度 実績	2022年度 実績 （目標達成率）	2024年度 目標	推移等 記載頁
	柱1 地球温暖化・エネルギー対策						
	1-1	成果	区内のエネルギー使用量(TJ)◆ (※)	22,772	22,650 (82.5%)	18,679	7
		活動	助成制度による省エネ支援件数(件)	497	682 (166.3%)	410	7
		活動	省エネルギーを心がけている区民の割合(%)	48.2	54.5 (77.9%)	70.0	8
	1-2	成果	再生可能エネルギーの導入による二酸化炭素排出削減効果量(t)	19,825	20,785 (94.4%)	22,000	8
		活動	区の助成による年間の太陽光発電の導入量(kW)	649	716 (84.2%)	850	9
		活動	再生可能エネルギーの導入量(累計)(kW)	40,410	42,367 (94.1%)	45,000	9
	※ 算定根拠となるデータ収集等の都合により、記載の年度に公表された2年前の実績値						

指標と単位 (◆：低減目標)		2021年度 実績	2022年度 実績 (目標達成率)	2024年度 目標	推移等 記載頁	
1-3	成果	区内の二酸化炭素吸収量 (t)	3,745	3,739 (95.9%)	3,900	10
	活動	樹木被覆地率 (%)	9.4	9.4 (95.9%)	9.8	10
	活動	緑化活動に実際に参加した区民の割合 (%)	17.3	18.0 (103.4%)	17.4	10
1-4	成果	熱中症や気象災害による死者数 (人) ◆	1	13 (—)	0	11
	活動	熱中症対策講座受講者数 (人)	1,435	3,907 (488.4%)	800	11
	活動	河川の氾濫時の避難場所を決めている区民の割合 (%)	77.9	71.7 (89.6%)	80.0	11
柱2 循環型社会の構築						
2-1	成果	区が把握できる廃棄物の量 (t) ◆	201,025	198,629 (94.6%)	188,000	12
	活動	区内のごみ量 (t) ◆	173,721	172,220 (92.0%)	158,400	12
	活動	1人1日あたりの家庭ごみ排出量 (g) ◆	532.8	516.2 (91.0%)	470	12

指標と単位 (◆：低減目標)		2021年度 実績	2022年度 実績 (目標達成率)	2024年度 目標	推移等 記載頁	
2-2	成果	燃やすごみに含まれる資源化物の割合 (%) ◆	16.3	15.0 (98.7%)	14.8	13
	活動	適正排出のための指導(ふれあい指導)件数(件) ◆	2,780	2,668 (61.2%)	1,632	13
	活動	雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している区民の割合 (%)	59.4	56.3 (80.4%)	70.0	13
2-3	成果	資源化率 (%)	19.79	19.52 (90.8%)	21.5	14
	活動	資源買取市の利用者数(人)	1,427	2,473 (38.0%)	6,500	14
	活動	環境に配慮した製品を選んで使っている区民の割合 (%)	10.9	11.2 (80.0%)	14.0	14
柱3 生活環境の維持・保全						
3-1	成果	公害苦情の相談件数(件) ◆	437	426 (54.5%)	232	15
	活動	公害苦情相談の解決率(解決件数/受付件数)(%)	95.0	104.0 (104.0%)	100	15
	活動	適切なアスベスト対策を行っている解体等工事現場の割合 (%)	69	28.3 (56.6%)	50	15

指標と単位 (◆：低減目標)		2021年度 実績	2022年度 実績 (目標達成率)	2024年度 目標	推移等 記載頁	
3-2	成果	ごみがなく地域 がきれいになっ たと感じる区民 の割合 (%)	58.0	59.8 (119.6%)	50.0	16
	活動	ごみゼロ地域清 掃活動の参加者 数 (人)	52,452	58,362 (73.0%)	80,000	16
	活動	不法投棄処理個 数 (個) ◆	7,154	7,910 (92.3%)	7,298	16
柱4 自然環境・生物多様性の保全						
4-1	成果	自然環境を大切 にすることを心 がけている区民 の割合 (%)	31.4	25.8 (64.5%)	40.0	17
	活動	生物とふれあう 事業の参加者数 (人)	40,172	90,327 (29.1%)	310,240	17
	活動	自然や生物に関 する情報発信回 数 (回)	2,838	2,841 (88.8%)	3,200	18
4-2	成果	まちなかの花や 緑が多いと感じ る区民の割合 (%)	62.9	60.9 (94.6%)	64.4	18
	活動	保存樹林指定箇 所数 (箇所)	27	29 (96.7%)	30	18
	活動	緑豊かな景観形 成に取り組む団 体・区民の数	1,218	1,238 (94.4%)	1,312	19

指標と単位 (◆：低減目標)		2021年度 実績	2022年度 実績 (目標達成率)	2024年度 目標	推移等 記載頁	
柱5 学びと行動のしくみづくり						
5-1	成果	日頃から環境への影響を考慮して具体的に行動していると答えた区民の割合 (%)	73.8	78.1 (97.6%)	80.0	19
	活動	環境に関する情報発信回数 (回)	529	695 (165.5%)	420	19
	活動	環境学習プログラムに参加し、修了した人の数 (累計) (人)	896	905 (94.5%)	958	20
5-2	成果	自主的な環境保全活動数 (回)	4,174	6,140 (438.6%)	1,400	20
	活動	区が実施する環境配慮を促す事業の数 (事業)	69	78 (97.5%)	80	21
	活動	エコ活動ネットワーク足立の登録団体数 (団体)	97	100 (105.3%)	95	21

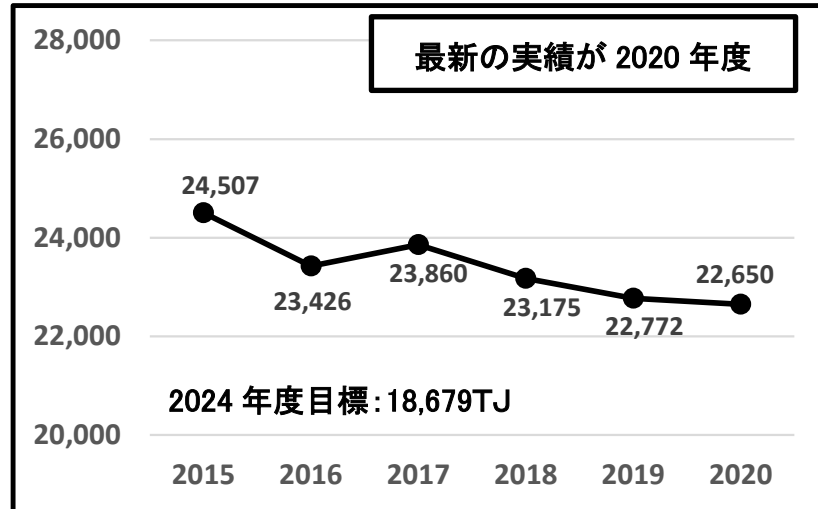
### 【主な実績の動向】

- ① 再生可能エネルギーの導入量については順調に増加している。  
(指標 1-2 参照)
- ② 前年度に比べ緩和されたものの、活動自粛や、イベント・施設使用の制限が続いていたことから、目標達成率が伸びていない指標がある。制限の解除等により今後、大幅な実績の回復が見込まれる。  
(指標 2-3、4-1 参照)
- ③ 感染対策による働き方の変化など、在宅時間が増えたことで、前年度に引き続き実績悪化に影響している指標がある。  
(指標 3-1 参照)
- ④ コロナ禍での計画の中間見直しであったため、目標設定と実績が大幅に背離している指標がある。実績と今後の見通しから、次回の計画改訂で改めて目標を設定する。  
(指標 1-4、5-2 参照)

## 2 実績の推移

### 柱1 地球温暖化・エネルギー対策

#### 【1-1 成果】区内のエネルギー使用量（TJ）（低減目標）



オール東京62市区町村共同事業から提供される区内で使用された電力、石油類、ガス類を熱量換算したデータ（2013年度エネルギー使用量26,684TJ）

使用量は減少しているものの、減少幅が鈍化した。要因は、家庭部門の使用量が増加したことで、中でも給湯、照明、家電使用が増加している。

2020年度は新型コロナウイルスが感染拡大し、外出自粛やリモートワークにより在宅時間が増加したことの影響が出ているとみられる。

#### 【1-1 活動】助成制度による省エネ支援件数（件）

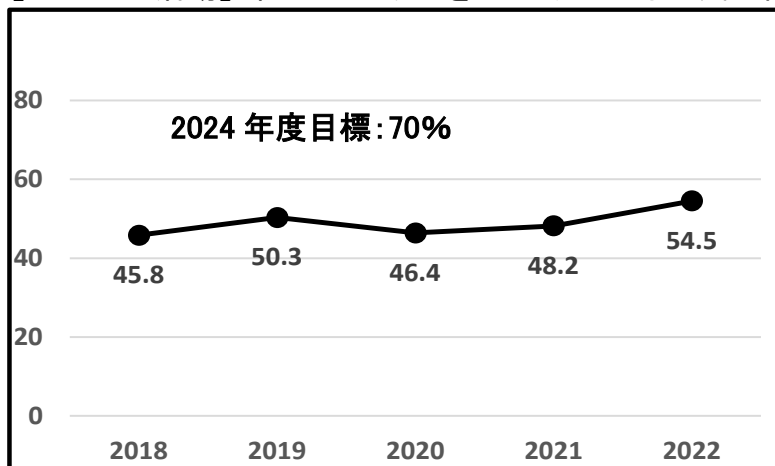
助成事業	2021年度	2022年度
省エネリフォーム費助成 （ガラス・窓・断熱材・遮熱塗装）	268	340
電気自動車等購入費助成	122	240
集合住宅・事業所等 LED照明設置費助成	107	102
合計	497	682

※ 2024年度目標 410件

2021年度からの新規指標

新型コロナウイルス感染拡大による資材の不足や自動車の製造の遅れからの回復が2022年度の申請数増に影響していると考えられる。

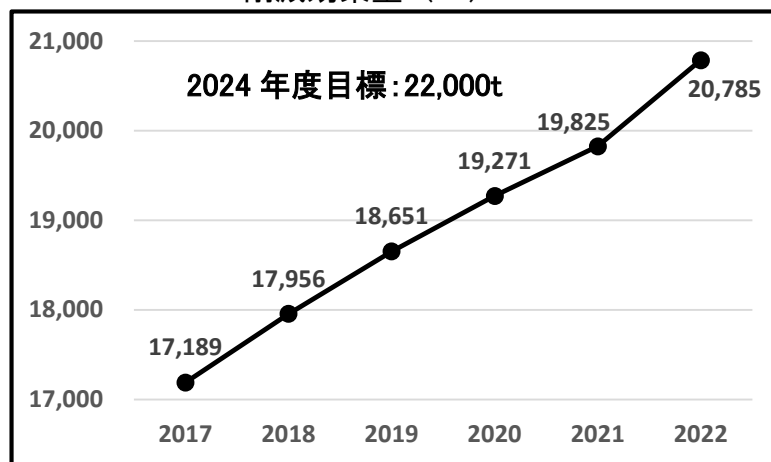
【1-1 活動】省エネルギーを心がけている区民の割合（％）



世論調査における、環境のために心がけていることに関する設問への回答結果。性別、年齢別でみると、男性の18～29歳が最も低く（29.9%）、女性の70歳以上が最も高い（65.3%）。男女とも、おおむね年齢が上がるほど割合が高くなっている。

また、ごみと資源の分別（84.7%）やマイバッグ使用（77.1%）に比べると省エネルギーへの意識は低い結果となっている。

【1-2 成果】区内の再生可能エネルギーの導入による二酸化炭素排出削減効果量（t）

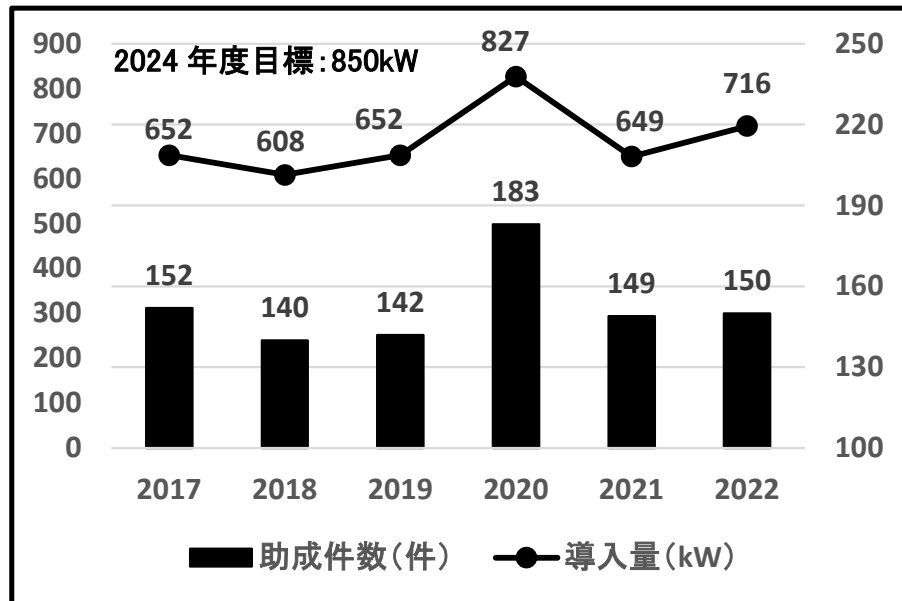


次頁の活動指標である区内の再生可能エネルギー導入量に基づき、二酸化炭素排出削減効果量を算出している。導入量同様、2020年度から2021年度にかけては伸び率が鈍化したが見られ、2022年度実績では回復している。

排出削減効果量は資源エネルギー庁「再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法 情報公表用ウェブサイト」の足立区の導入容量（累計）と東京都「東京ソーラー屋根台帳（ポテンシャルマップ）」の年間予測発電量の推定等に基づき算出している。



【1-2 活動】区の助成による年間の太陽光発電の導入量 (kW)



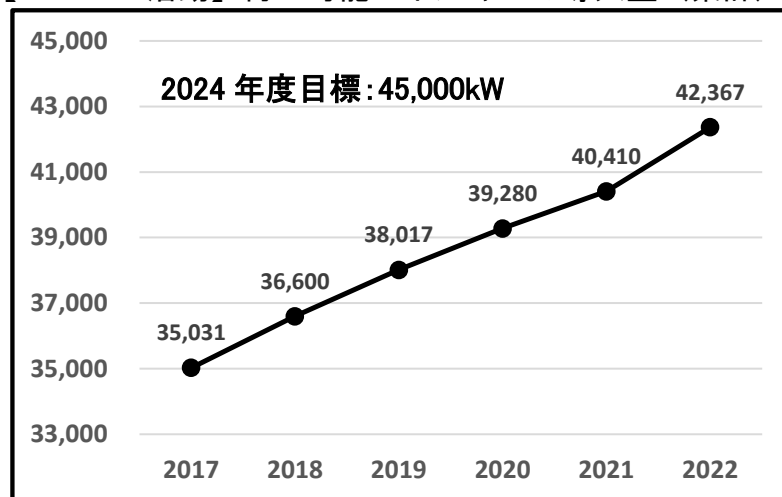
※ 助成件数も併せて表示

2020年度の導入量、助成件数の増は、2019年10月の消費税増税前の駆け込み購入分の申請が影響している。

申請期間は受電開始後1年間。

申請件数は前年度とほぼ同数で導入量の違いは申請一件あたりの導入量（設置した広さ）の違いによるもの。

【1-2 活動】再生可能エネルギーの導入量（累計） (kW)



資源エネルギー庁「再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法 情報公表用ウェブサイト」で公表される実績値。

足立区の2022年度（2022年4月から2023年3月まで）の太陽光発電設備の新規導入件数は10kW未満の設置で451件、導入容量は1,918kW（2021年度の10kW未満の新設は268件、1,119kW）であった。

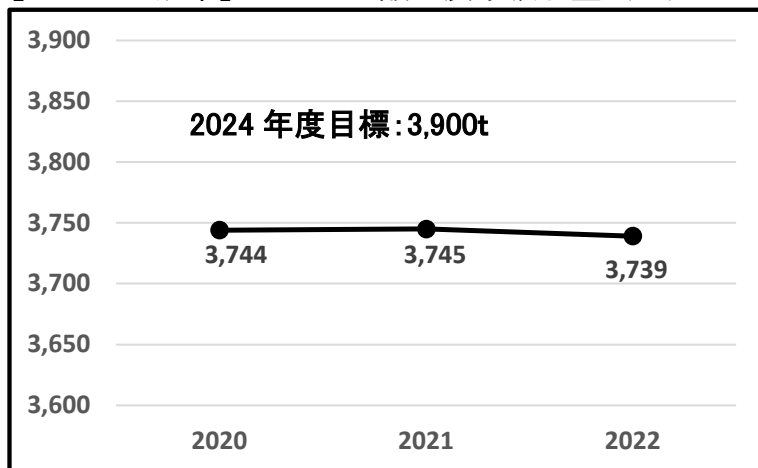
また、10kW以上50kW未満では、新規設置2件、導入容量は38kW（2021～22は1件、10kW）であった。

【参考】太陽光パネルの設置容量と面積（目安）

10kW⇒100㎡⇒30坪

50kW⇒500㎡⇒150坪

【1-3 成果】区内の二酸化炭素吸収量（t）



公園数：351（2021 比△2）

公園面積：3,152,134 m<sup>2</sup>（2021 比△666 m<sup>2</sup>）前年度比 △0.6t-CO<sub>2</sub>/年

街路樹総数：22,359 本（2021 比△124 本）前年度比 △5t-CO<sub>2</sub>/年

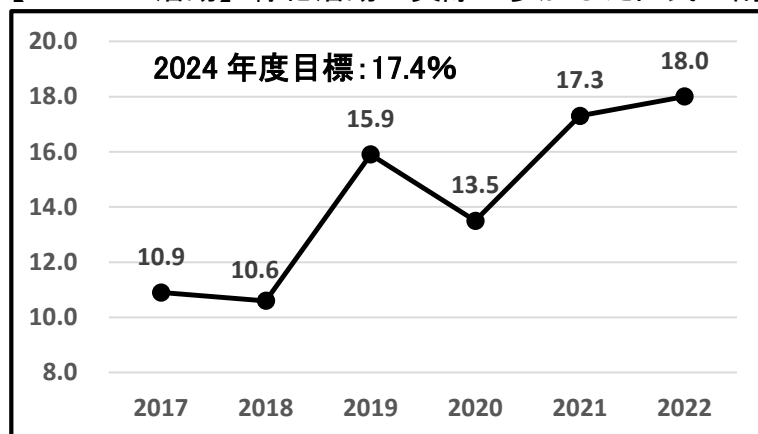
※ その他の緑地等での計算において端数処理があるため差がある。

【1-3 活動】樹木被覆地率（%）

おおむね5年おきの調査により実績を更新している。

次回の計測は2023年度予定。

【1-3 活動】緑化活動に実際に参加した区民の割合（%）

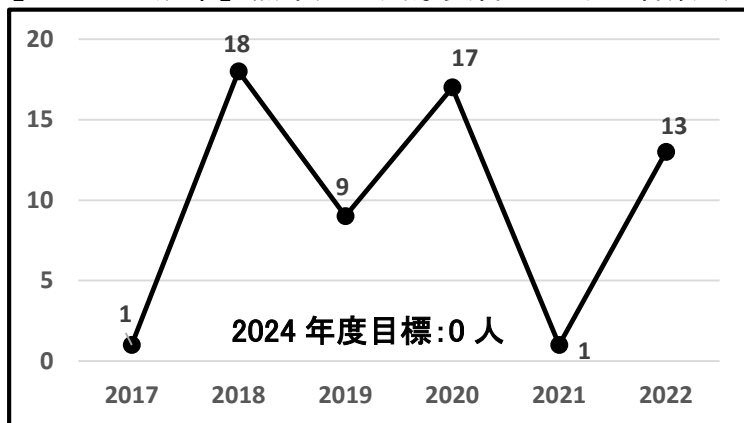


世論調査において、この1年間に緑化活動に参加したと回答した区民の割合。

自然観察や園芸講座など、花や緑に興味を持ってもらう企画を実施するとともに、緑の協力員へのスキルアップ講座のような花や緑の育成・保全をリードする人材を育成している。

これらの取り組みが実績値の向上に寄与していると考えられる。

【1-4 成果】熱中症や気象災害による死者数（人）（低減目標）



※ 2022年度実績の13名はすべて熱中症による死者

【1-4 活動】熱中症対策講座受講者数（人）

2021年度実績 1,435人

2022年度実績 3,907人

2022年度実績内訳

（高齢者）1,918人

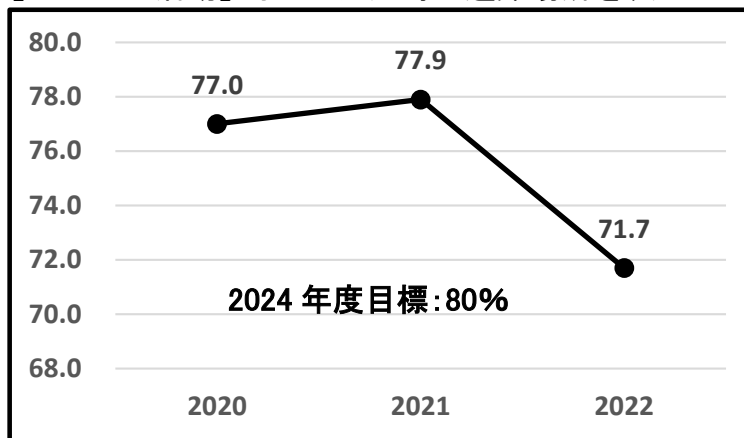
各住区センターの「涼を得るイベント」内で実施。

センターに来てもらい涼んでもらうことを目的としている。

（小学生）1,989人

緑のカーテン、気候変動、気象予報士の3講座。

【1-4 活動】河川の氾濫時の避難場所を決めている区民の割合（％）



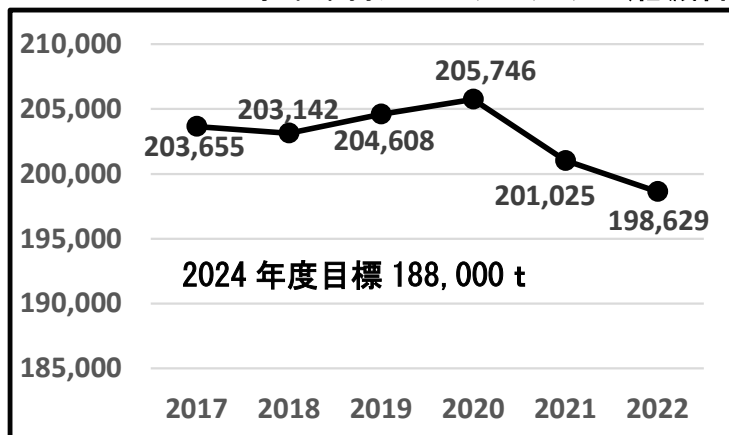
実績は前年度に比べ低下しているため、周知を徹底し、意識啓発を図る必要がある。

千住地区など、荒川に近いエリアでは割合は高くなっている。

また、性別・年代別にみると、「決めている」と回答した人は、女性の70歳以上が最も高く、女性の18～29歳が最も低くなっている。男女ともおおむね年齢が下がるほど割合が低くなっている。

## 柱2 循環型社会の構築

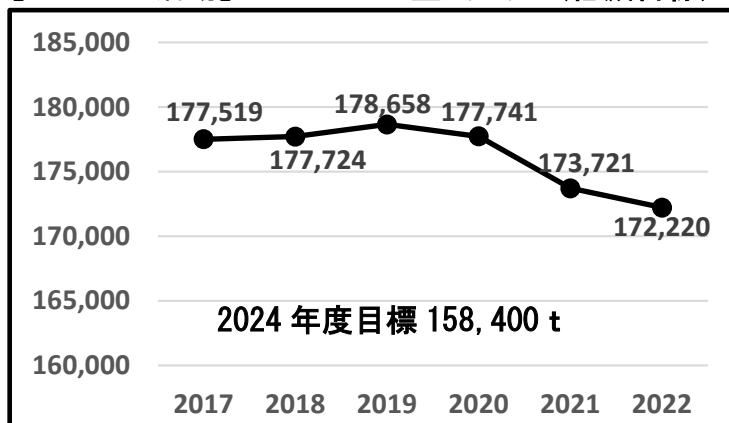
【2-1 成果】区が把握できる廃棄物の量（区収集ごみ+資源化物+事業系持込ごみ）（t）（低減目標）



内訳

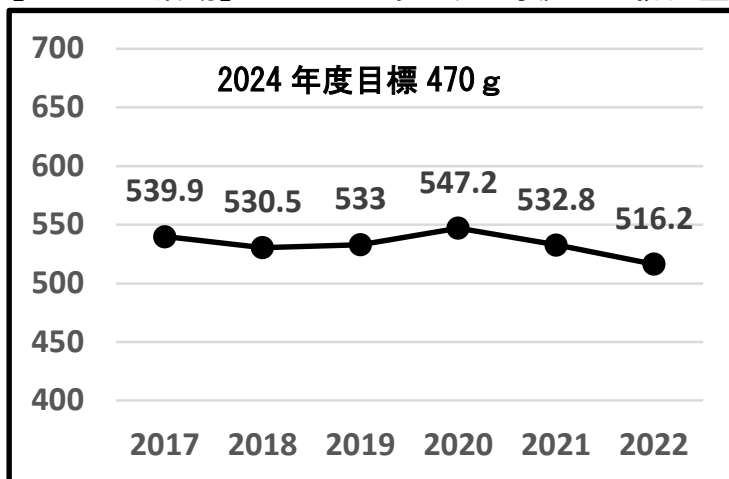
区収集ごみ（主に家庭ごみ）	130,022t（前年度比減）
事業系持込ごみ	42,198t（前年度比増）
資源（行政回収、集団回収等）	26,409t（前年度比減）

【2-1 活動】区内のごみ量（t）（低減目標）

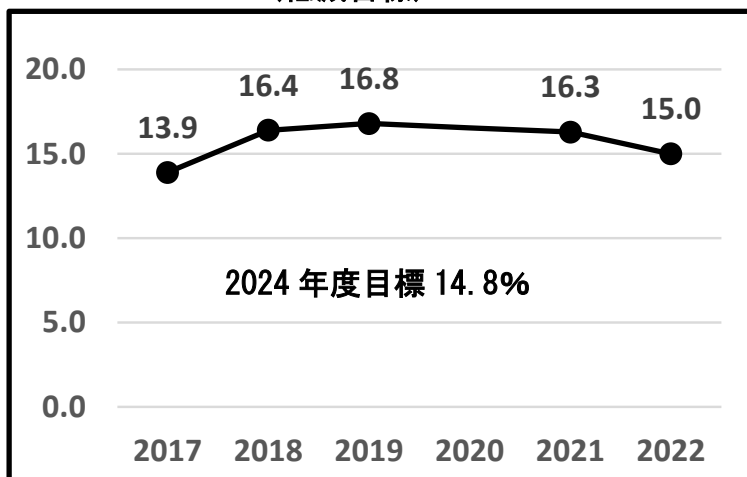


成果指標同様、家庭系ごみが減少したことが実績値の減に影響。

【2-1 活動】1人1日あたりの家庭ごみ排出量（g）（低減目標）



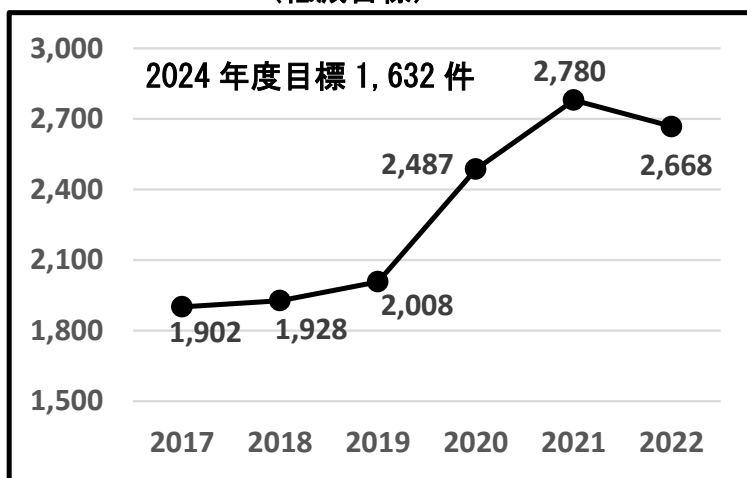
【2-2 成果】燃やすごみに含まれる資源化物の割合 (%)  
(低減目標)



※ 2020年度は組成調査未実施

令和4年度の世論調査結果では、「ごみと資源の分別を実行している」割合は、84.7%と高く、分別への意識の向上が実績に影響していると考えられる。

【2-2 活動】適正排出のための指導 (ふれあい指導) 件数 (件)  
(低減目標)



適正排出が増え、指導が不要な状態を目指すため、低減目標としている。これまで増加傾向が続いてきたが、2022年度はわずかではあるが、実績が減少に転じた。

【2-2 活動】雑紙を燃やすごみでなく、資源として出している区民の割合 (%)

世論調査の項目。

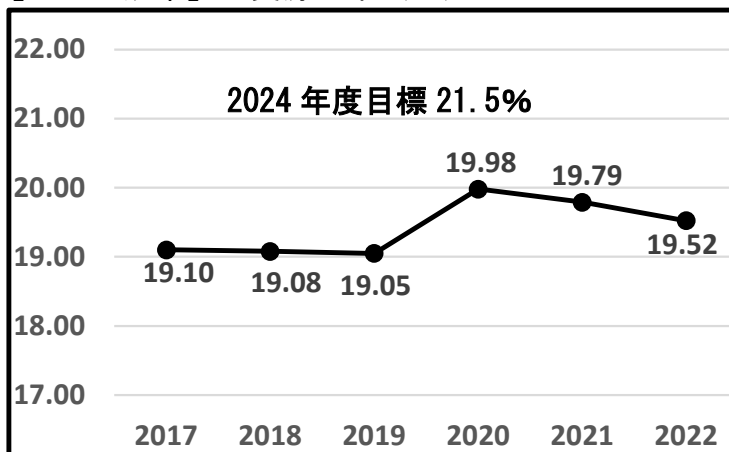
2021年度実績 59.4%

2022年度実績 56.3%

資源全体の分別意識が高まり、混入の割合も減少しているが、雑紙(※)の分別意識は前年度に比べ下がっている。改めて周知強化が必要。

※ 古紙のうち、新聞、雑誌、段ボール、紙パック以外のもの

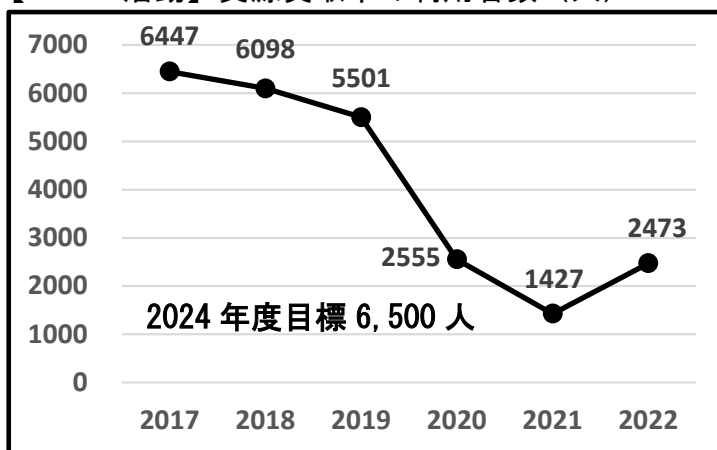
【2-3 成果】 資源化率 (%)



資源化率

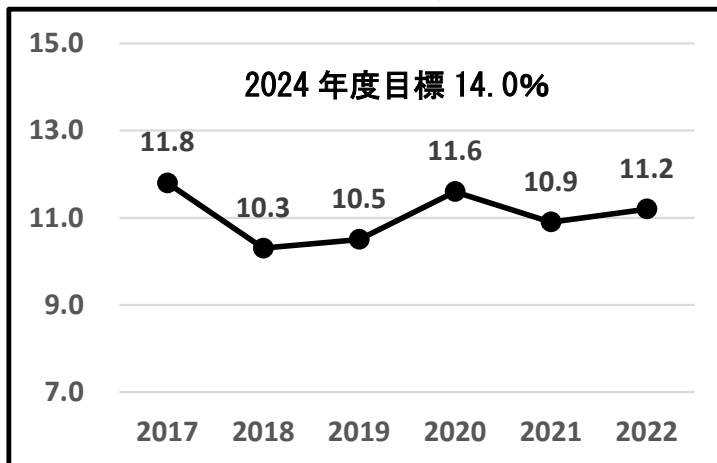
(資源回収量+燃やさないごみを資源化した量+粗大ごみを資源化した量) ÷ (区が収集したごみ量+区が収集した資源化物量+集団回収量)

【2-3 活動】 資源買取市の利用者数 (人)



新型コロナウイルスの影響により、中止していた事業者が買取市を一部再開したことにより前年度より実績が増となった。

【2-3 活動】 環境に配慮した製品を選んで使っている区民の割合 (%)



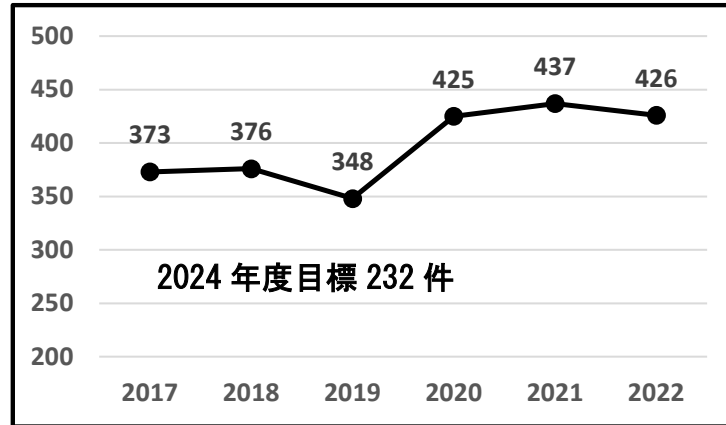
環境に配慮した製品とは

- ① 天然由来成分や環境負荷が低い素材を使用した製品

- ② エコマークや省エネ性マーク、再生紙利用マーク等が表示されている製品
- ③ Rマークがついたプラスチック製品やリサイクルコットンを使用した衣類等

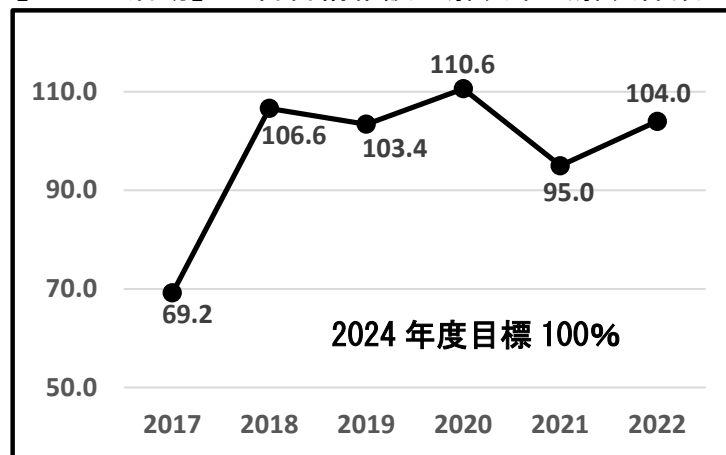
### 柱3 生活環境の維持・保全

#### 【3-1 成果】公害苦情の相談件数（件）（低減目標）



前年度に引き続き、外出自粛や在宅ワーク等、日中の在宅増により、近隣の工事音等に関する苦情が多く寄せられたことが実績に影響している。

#### 【3-1 活動】公害苦情相談の解決率（解決件数／受付件数）（％）



前年度中に解決できなかった公害苦情相談を解決したこともあり、解決件数が受付件数を上回り解決率が100%以上となった。

#### 【3-1 活動】適切なアスベスト対策を行っている解体等工事現場の割合（％）

2021 年度実績 69.0%

2022 年度実績 28.3%

区が立ち入った現場の総件数のうち適切なアスベスト対策が行われていた件数の割合

（適切なアスベスト対策とは）

有資格者による調査結果や、施工計画、法令の規制などに基づいて行われていることを示す。

2021 年度はアスベスト工事の届出のあった現場の状況確認が主で

あったため、適切な工事の割合は 69.0%と高かったが、2022 年度から解体等工事現場のパトロールを開始し、従来は規制対象外だった現場も確認するようになり、適切な工事の割合は 28.3%に低下した。

違反の内容は、掲示の不備（違反件数の 7 割）、報告未了（違反件数の 4 割）など形式的なものが多く、施工業者の法令知識の不足によるものと思われる。

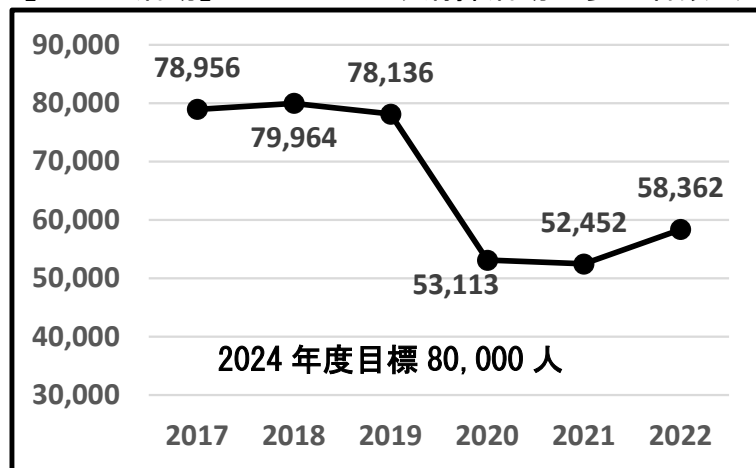
区外の施工業者による工事も多いため、ホームページなど区外の業者も見ることができる手段での啓発を継続していく必要がある。

**【3-2 成果】ごみがなく地域がきれいになったと感じる区民の割合 (%)**

2021 年度実績 58.0%

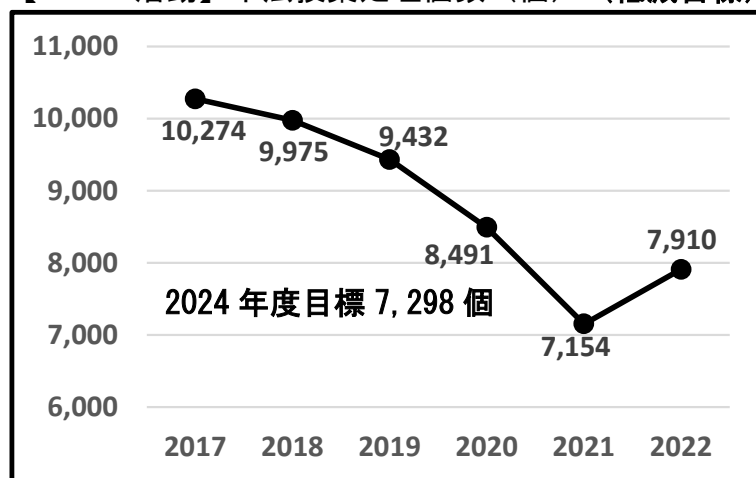
2022 年度実績 59.8%

**【3-2 活動】ごみゼロ地域清掃活動の参加者数 (人)**



新型コロナウイルス感染拡大以降、参加者数は大幅に減少した。2022 年度は若干回復傾向がみられる。

**【3-2 活動】不法投棄処理個数 (個) (低減目標)**



不法投棄され、区が処理したごみ、自転車、バイク、家電の合計。不法投棄数はピーク時（2012 年度）には約 20,000 個であった。

2022 年度は不法投棄防止キャンペーンとして町会・自治会や区内企業等と連携し不法投棄・落書きの通報の呼びかけを行ったこともあり、前年度より通報件数が増となった。



#### 柱4 自然環境・生物多様性の保全

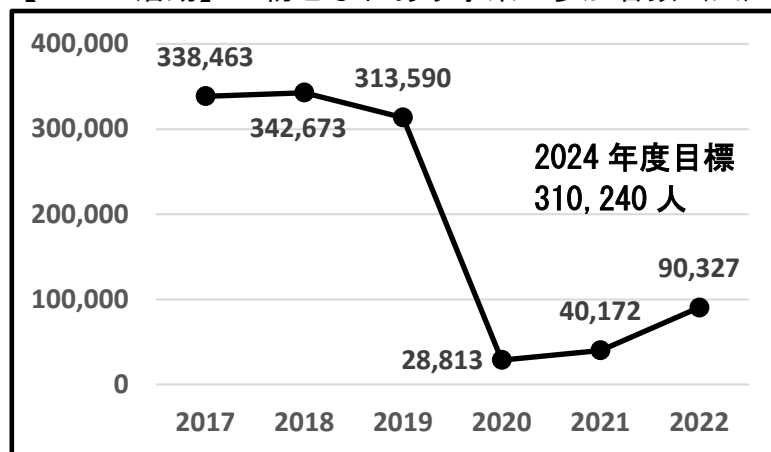
【4-1 成果】自然環境を大切にすることを心がけている区民の割合  
(%)

2021 年度実績 31.4%

2022 年度実績 25.8%

2年間の外出自粛やそれに伴うイベントの減により、自然環境への意識低下が考えられる。イベントの再開と併せ、意識啓発策を積極的に展開していく必要がある。

【4-1 活動】生物とふれあう事業の参加者数(人)

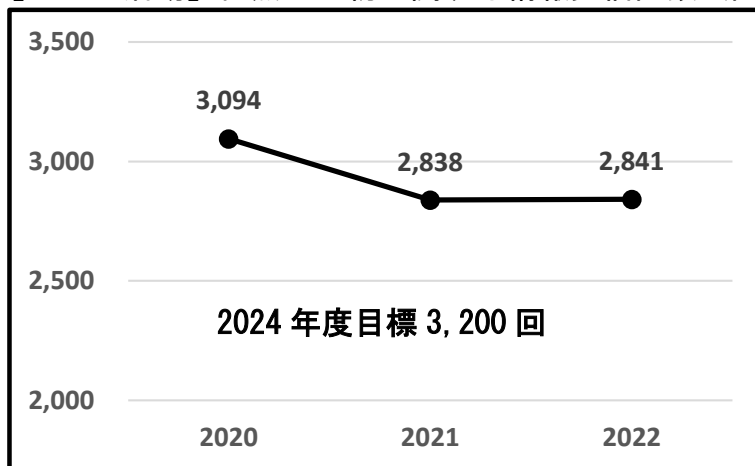


- ① 生物園、都市農業公園、桑袋ビオトープ、荒川ビジターセンターの事業：88,802名
- ② 野鳥観察会：35名
- ③ あだち自然環境デー、環境学習ツアー：中止
- ④ 「あだち生きもの図鑑をつくろう」(アプリを使い区内で見つけた生きものを撮影、投稿するイベント)：1,490名

生物園などでは新型コロナウイルスによるイベント開催等の制限緩和により実績が回復傾向にあるが、2023年度は事業の実施回数を感染拡大前と同程度に回復させていることから、今後、さらなる実績の増が期待できる。

「あだち生きもの図鑑をつくろう」はイベントの実施制限を受け、会場に集まることなく参加できる事業としてコロナ禍に開始したが、大変好評により実施を継続している。

【4-1 活動】 自然や生物に関する情報発信回数（回）



2020 年度実績からの新規調査項目

環境部、生物園、都市農業公園、桑袋ビオトープ、荒川ビジターセンターからの自然や生物に関する情報発信回数（ホームページ、SNS、チラシ、広報紙など）

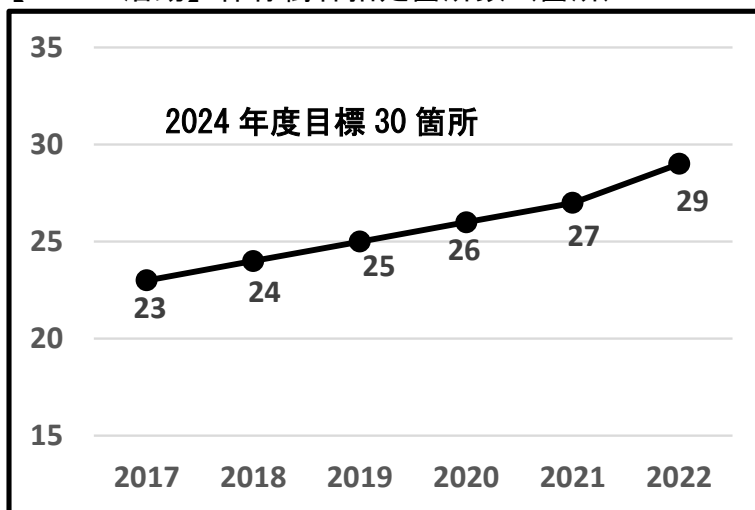
【4-2 成果】 まちなかの花や緑が多いと感じる区民の割合（％）

2021 年度実績 62.9％

2022 年度実績 60.9％

2021 年度世論調査より質問項目が「まちなかの花や緑が増えていると感じる区民の割合」から「まちなかの花や緑が多いと感じる区民の割合」に修正されたことを受け、指標の文言と目標値を修正している（緑の基本計画）

【4-2 活動】 保存樹林指定箇所数（箇所）

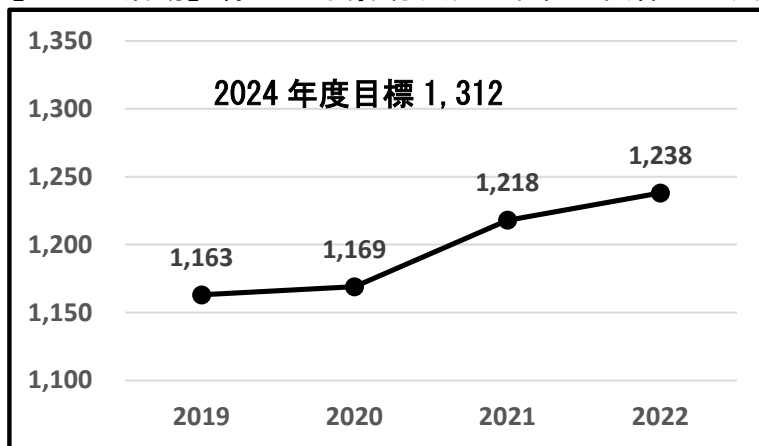


区が保存樹林として指定した箇所数。樹木の一集団が占める土地の面積 300 平方メートル以上が対象。

樹林面積 5 万 4099 平方メートル（令和 5 年 4 月 1 日現在）

対象となる樹林の所有者・管理者への働きかけにより、2022 年度は新たに 2 か所指定となった。

#### 【4-2活動】緑豊かな景観形成に取り組む団体・区民の数



公園等の管理、花壇や緑地・大木の管理、緑によるまちの美化、農業支援などに取り組む団体や区民の数

農業ボランティア養成講座の再開による新規登録、花のあるまちかど事業や花壇管理団体等の増加があり、実績は前年度比で増となった。

#### 柱5 学びと行動のしくみづくり

##### 【5-1成果】日頃から環境への影響を考慮して具体的に行動していると答えた区民の割合（％）

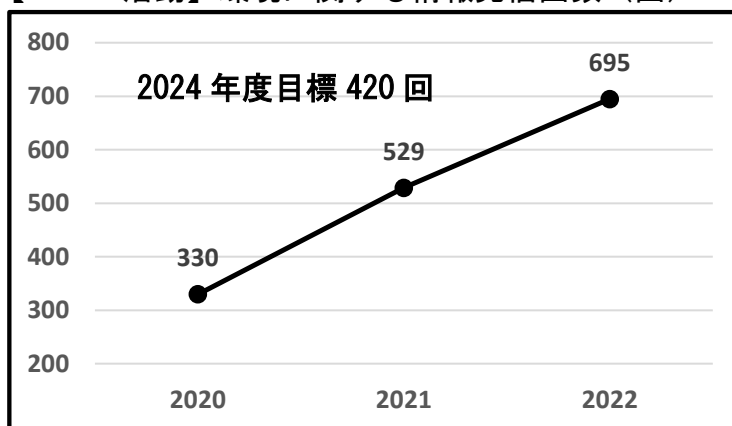
2021年度実績 73.8%

2022年度実績 78.1%

性別・年代別で見ると、女性の18～29歳が85.7%と最も高く、次いで、女性の60代が84.3%で続いている。一方、男性の18～29歳が67.2%と最も低くなっている。

また、世論調査の項目「この1年に参加した活動と引き続き、または今後参加したいと思う活動」では、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」が最も多く、前年度比でも向上している。自宅で過ごす時間の増加に伴い、身近な緑化活動が注目されていることがわかる。

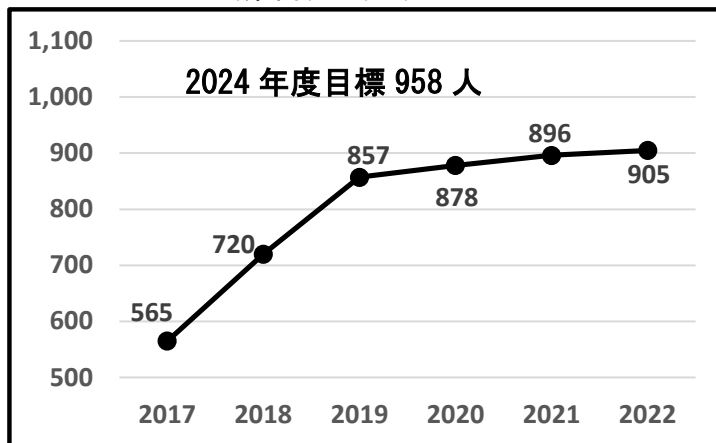
##### 【5-1活動】環境に関する情報発信回数（回）



環境部がSNS、広報紙、チラシ、ポスター等で環境に関する情報を発信した回数。

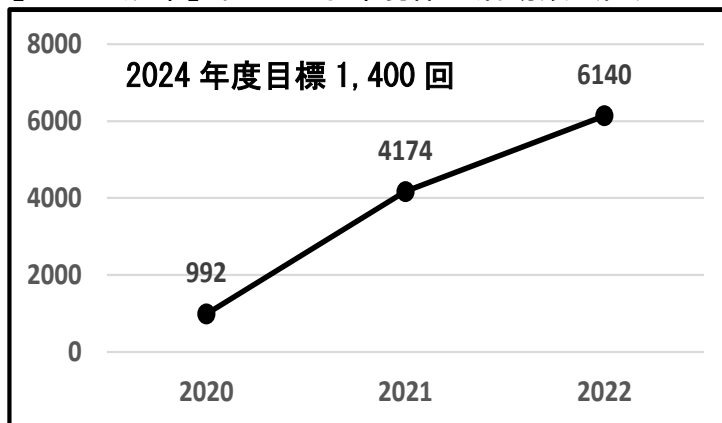
コロナ禍でのイベントに代わるアプリを活用した事業やエコな取組みの情報を募集し紹介するなど、積極的な事業PRにより実績が前年度を大きく上回った。

【5-1 活動】環境学習プログラムに参加し、修了した人の数  
(累計) (人)



2022年度はあだち環境ゼミナール(年10回の連続講座)を修了し、レポート提出等要件を満たしたことであだち環境マイスターに認定された9名が実績として追加された。

【5-2 成果】自主的な環境保全活動数(回)



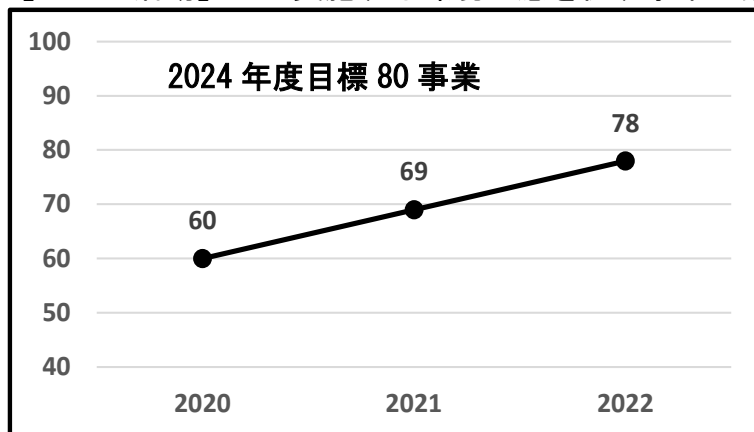
内訳

- |                        |           |
|------------------------|-----------|
| ① エコ活動ネットワーク足立登録団体活動数  | 3 2 1回    |
| ② 野鳥モニター自主活動数          | 2 4 3回    |
| ③ 環境基金採択事業実施数          | 3 1回      |
| ④ フードシェアリングサービス(※)利用回数 | 5, 5 4 5回 |

フードシェアリングサービス利用回数が大幅に増加している(前年度比1,921件増)。要因としては、登録店舗数の増加(2021年度19店舗、2022年度25店舗)や、サービス自体の認知度向上などが挙げられ、事業周知の効果の表れと考えられる。

※ フードシェアリングサービスとは、店舗から廃棄となりそうな食品の情報をアプリにより提供、必要とする方とをつなぐことで食品ロスを未然に防ぐ取組みのこと。

【5-2活動】区が実施する環境配慮を促す事業の数（事業）

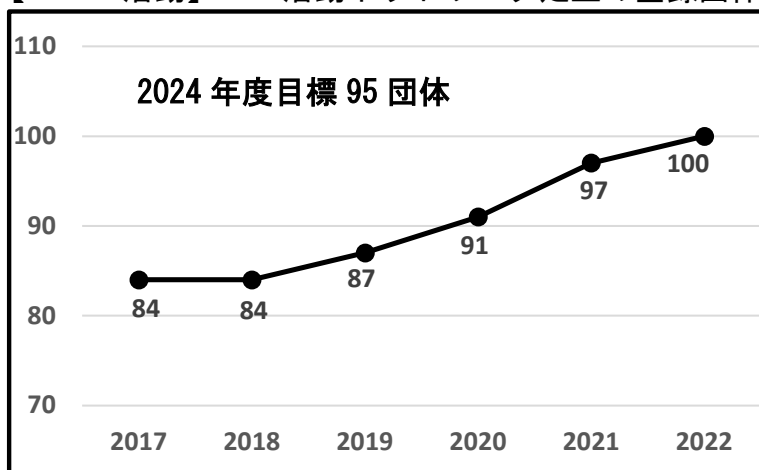


行政評価（事務事業評価調書）で環境に配慮していると回答した事業のうち、環境配慮を対外的に周知・アピールしている事業の数。

主な取組み

- ① 周知用冊子等への再生紙や植物性インクの使用について掲載している。
- ② 印刷物（冊子）を減らし、電子ブック版のダウンロードを推奨している。
- ③ イベント会場への移動には自転車や公共交通機関の利用を呼びかけ、自家用車の使用削減に取り組んでいる。
- ④ イベント来場者、会議や講座への参加者にマイボトル・マイバッグの持参を周知している。
- ⑤ 施設貸出しの際、電気や水道等エネルギーの使用は必要最低限にとどめるよう依頼している。
- ⑥ 施設に室温の調整や節水等に関する協力依頼を掲示している。

【5-2活動】エコ活動ネットワーク足立の登録団体数（団体）



2022 年度に新規登録した団体には、環境基金による助成を受け活動を行った団体もある。庁内連携により、区民や団体が区の事業等資源を活用しやすい環境づくりに引き続き取り組んでいく。

※ エコ活動ネットワーク足立（EANA）

団体、事業者等の環境活動に関する情報発信や交流、区の環境行政との協働を目的とした登録制のネットワーク

	<p><b>3 今後の方針</b></p>
--	-----------------------

2022年度の進捗状況を庁内に周知するとともに、ホームページ等で情報発信し、目標達成に向けて引き続き取り組んでいく。

# 産業環境委員会報告資料

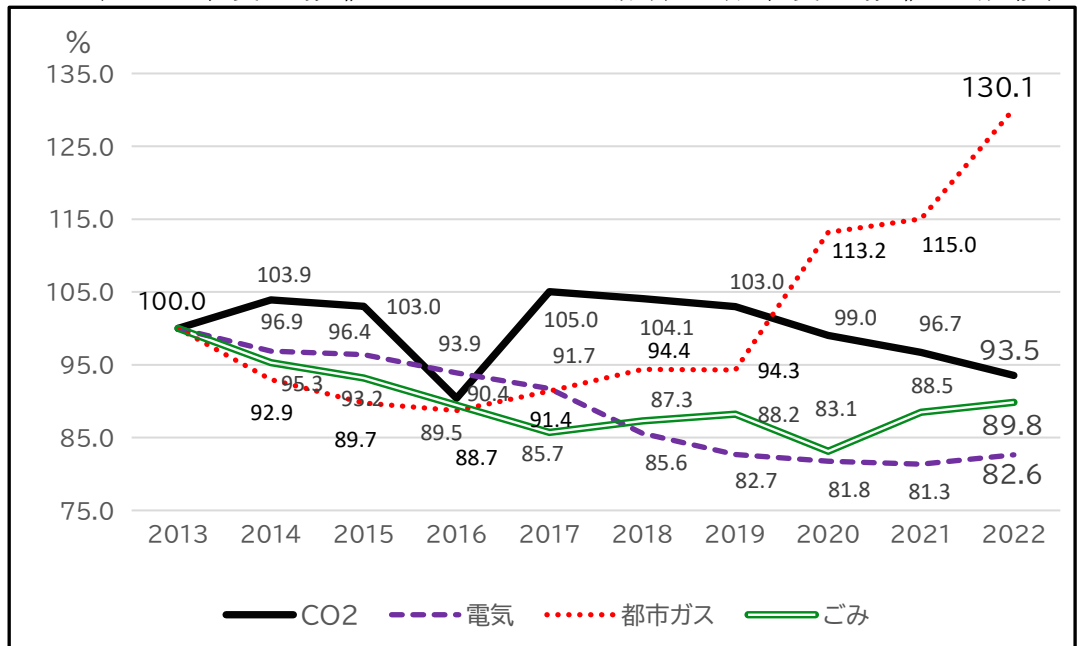
令和5年9月27日

件名	区施設における二酸化炭素排出量とごみ量について																				
所管部課名	環境部環境政策課																				
内容	<p>2022年度の区施設におけるエネルギー使用に伴う二酸化炭素（以下「CO<sub>2</sub>」という。）排出量、ごみ量の実績について概要を報告する。</p> <p><b>1 対象施設</b> 本庁舎、区民事務所、住区センター、生涯学習・スポーツ施設、福祉事務所、保健センター、小・中学校、保育園、区道の街路灯など</p> <p><b>2 2022年度のCO<sub>2</sub>排出量、ごみ量、電気・都市ガス使用量</b></p> <table border="1" data-bbox="435 801 1428 1077"> <thead> <tr> <th></th> <th>2022年度</th> <th>前年度比</th> <th>2013年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CO<sub>2</sub>排出量</td> <td>34,646 t</td> <td>△3.3%</td> <td>△6.5%</td> </tr> <tr> <td>電気使用量</td> <td>58,846,030kWh</td> <td>1.6%</td> <td>△17.4%</td> </tr> <tr> <td>都市ガス使用量</td> <td>4,402,509m<sup>3</sup></td> <td>13.1%</td> <td>30.1%</td> </tr> <tr> <td>ごみ量</td> <td>2,380 t</td> <td>1.5%</td> <td>△10.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1) CO<sub>2</sub>排出量の減少理由 ア 学校の電力契約先の変更（排出係数(※)の低い電力供給事業者と契約した) ※ 「排出係数」については次頁4「電気事業者の排出係数」を参照</p> <p>(2) 電気・ガス使用量の増加理由 ア 施設の使用制限の緩和による利用増の影響 イ 熱中症対策として学校での冷房使用の増 ウ 各施設において感染対策でこまめな換気を行っていたことによる冷暖房の稼働増</p> <p>(3) ごみ量の増加理由 ア 施設の使用制限の緩和による利用増の影響</p> <p><b>【都市ガス使用量の2013年度比増の要因について】</b> 2013年度比の都市ガス使用量の増については、避難所での停電時の使用を想定し、区内全小・中学校の体育館にガスヒートポンプ・エアコンを設置したことが要因となっている（2019年度1校、2020年度91校に設置）。</p>		2022年度	前年度比	2013年度比	CO <sub>2</sub> 排出量	34,646 t	△3.3%	△6.5%	電気使用量	58,846,030kWh	1.6%	△17.4%	都市ガス使用量	4,402,509m <sup>3</sup>	13.1%	30.1%	ごみ量	2,380 t	1.5%	△10.2%
	2022年度	前年度比	2013年度比																		
CO <sub>2</sub> 排出量	34,646 t	△3.3%	△6.5%																		
電気使用量	58,846,030kWh	1.6%	△17.4%																		
都市ガス使用量	4,402,509m <sup>3</sup>	13.1%	30.1%																		
ごみ量	2,380 t	1.5%	△10.2%																		

### 3 実績の推移

CO<sub>2</sub>排出量、電気・都市ガス使用量、ごみ量の推移

(2013年度の数値を100とした場合の各年度の数値の推移)



※ 2013年度は第三次足立区環境基本計画改定版に示すCO<sub>2</sub>排出削減目標の基準年度(2030年度目標 2013年度比46%以上の削減)

### 4 電気事業者の排出係数

区が電気を調達している事業者の排出係数(調達量順上位5社)

(kg) (万kWh)

事業者名	2020	2021	2022	2022 調達量
東京電力エナジーパートナー株式会社	0.441	0.441	0.451	2,986
株式会社エネット	—	—	0.362	1,567
日立造船株式会社	—	0.017	0.153	531
丸紅新電力株式会社	0.484	0.496	0.546	472
エネサーブ株式会社	0.636	0.568	0.534	167

排出係数とは、一定のエネルギー使用量あたりのCO<sub>2</sub>排出量のこと。電気の場合は1kWhを供給する際のCO<sub>2</sub>排出量を指す。

### 5 今後の方針

結果を区内で共有するとともに、区の事務事業の省エネルギー化や再エネ電力への契約見直し、ごみの分別徹底等、施設の脱炭素化に向け取り組みを進めていく。



# 産業環境委員会報告事項

令和5年9月27日

件名	<b>新環境学習施設の事業内容及び委託事業者選定にかかるプロポーザルの実施について</b>														
所管部課	環境部環境政策課														
内容	<p>新環境学習施設の事業として、あだち再生館と荒川ビジターセンターを引き継いだ事業を実施する。その上でSDGsの視点でリサイクルに限らず、広く環境に関する事業を展開し、区民への意識啓発ならびに有益な情報発信の場とする。</p> <p><b>1 事業名</b> 新環境学習施設運営事業委託</p> <p><b>2 事業概要</b> 令和6年4月より開始する新環境学習施設は、あだち再生館の環境講座等の事業と荒川ビジターセンターの生物多様性に関わる事業を引き継ぎつつ、環境全般についての事業を実施する。</p> <p><b>3 実施事業者の選定について</b> 公募型プロポーザル方式による選定</p> <p><b>4 プロポーザル選定委員候補案（5名）</b></p> <table border="1" data-bbox="419 1131 1331 1402"> <thead> <tr> <th>委員区分</th> <th>人数</th> <th>役職</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">外部委員</td> <td rowspan="2">2</td> <td>目白大学 人間学部児童教育学科 教授</td> </tr> <tr> <td>東京理科大学 工学部電気工学科 助教</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">区民委員</td> <td rowspan="2">2</td> <td>足立区本木・水辺の会</td> </tr> <tr> <td>足立区女性団体連合会 副会長</td> </tr> <tr> <td>区職員</td> <td>1</td> <td>管理職員</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>5 債務負担額</b> 令和5年度 0円 令和6年度 56,167千円 ※ 契約の更新は2回まで可能。</p> <p><b>6 今後のスケジュール（予定）</b> 令和5年 10月 第1回選定委員会（募集・選定方法等の決定） 参加事業者の募集 12月 第2回選定委員会（参加表明書の審査、選定） 令和6年 2月 最終選定委員会（契約候補事業者の特定） 3月 契約締結 4月 委託業務開始</p> <p><b>7 その他</b> 9月補正予算にて債務負担を設定する。</p>	委員区分	人数	役職	外部委員	2	目白大学 人間学部児童教育学科 教授	東京理科大学 工学部電気工学科 助教	区民委員	2	足立区本木・水辺の会	足立区女性団体連合会 副会長	区職員	1	管理職員
委員区分	人数	役職													
外部委員	2	目白大学 人間学部児童教育学科 教授													
		東京理科大学 工学部電気工学科 助教													
区民委員	2	足立区本木・水辺の会													
		足立区女性団体連合会 副会長													
区職員	1	管理職員													

# 産業環境委員会報告事項

令和5年9月27日

件名	区内施設における令和5年度上半期のマイボトル用給水機の設置状況について																																	
所管部課名	環境部環境政策課																																	
内容	<p>令和5年度上半期の区内施設のマイボトル用給水機設置状況について、以下のとおり報告する。</p> <p><b>1 設置施設数</b>          19施設 36台          ※ 令和5年9月1日現在</p> <p><b>2 設置施設</b></p> <table border="1" data-bbox="397 893 1361 1352"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>設置施設</th> <th>台数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">常温</td> <td>本庁舎</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>江北保健センター</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>足立清掃事務所</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>都市農業公園</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">冷水</td> <td>本庁舎</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ギャラクシティ</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>学びピア21</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>全地域学習センター（合計13施設）</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 紙コップ等が設置されていない、マイボトル専用給水機のみ集計</p> <p><b>3 本庁舎の一か月あたりの利用実績</b></p> <table border="1" data-bbox="397 1498 1385 1704"> <thead> <tr> <th>設置場所</th> <th>水量</th> <th>500mL ペットボトル削減本数</th> <th>CO<sub>2</sub>削減量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北館地下1階厚生室</td> <td>511L</td> <td>1,022本</td> <td>107.4kg</td> </tr> <tr> <td>南館10階厚生室</td> <td>291L</td> <td>582本</td> <td>61.1kg</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 4月から7月の平均値で算出          ※ CO<sub>2</sub>削減量の算出方法は環境省の研究報告書に基づく</p>	種類	設置施設	台数	常温	本庁舎	2	江北保健センター	1	足立清掃事務所	2	都市農業公園	1	冷水	本庁舎	1	ギャラクシティ	1	学びピア21	3	全地域学習センター（合計13施設）	25	設置場所	水量	500mL ペットボトル削減本数	CO <sub>2</sub> 削減量	北館地下1階厚生室	511L	1,022本	107.4kg	南館10階厚生室	291L	582本	61.1kg
種類	設置施設	台数																																
常温	本庁舎	2																																
	江北保健センター	1																																
	足立清掃事務所	2																																
	都市農業公園	1																																
冷水	本庁舎	1																																
	ギャラクシティ	1																																
	学びピア21	3																																
	全地域学習センター（合計13施設）	25																																
設置場所	水量	500mL ペットボトル削減本数	CO <sub>2</sub> 削減量																															
北館地下1階厚生室	511L	1,022本	107.4kg																															
南館10階厚生室	291L	582本	61.1kg																															

# 産業環境委員会報告資料

令和5年9月27日

件名	「AIを利用した食品ロス削減実証事業」参加者の決定及び事業の実施について						
所管部課名	環境部ごみ減量推進課						
内容	<p>「AIを利用した食品ロス削減実証事業」について、以下のとおり参加者を決定し、事業を実施するので報告する。</p> <p><b>1 事業名</b> AIを利用した食品ロス削減実証事業</p> <p><b>2 実証事業参加者</b> 5者（応募5者）</p> <p><b>3 参加者の主な業種内訳</b></p> <table border="1" data-bbox="427 853 858 1010"> <thead> <tr> <th>業種</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>飲食店</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>食品小売店</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>4 実証事業参加基準</b> 区内で営業する飲食店、食品を提供するサービス業、食品卸売、小売業のうち、実証事業実施期間中、継続して日毎の食品ロス発生量を計量した記録を区に提供できる事業所とする。</p> <p><b>5 事業目的及び内容</b> 公募により応募のあった区内の飲食店及び食品小売店に、食品ロス削減システム及び必要な機材等を提供し、AIシステムが出す需要予測を食材の仕入れ、仕込み等に活用することで、食品ロスの発生をどの程度抑制できるか検証する。</p> <p>(1) AIシステムが提供する主な予測 ア 1日あたりの来客予測 イ メニュー毎の売上予測</p> <p>(2) AIシステムに取り込む主なデータ ア 来客数 イ 時間毎、メニュー毎の売上数 ウ 天気、気温等ビッグデータ、カレンダー情報 ※ ア、イは事業に参加する店舗のPOSレジから自動で取得する。</p> <p><b>6 事業実施期間</b> 令和5年10月10日から令和7年3月31日まで</p> <p><b>7 今後の方針</b> 実証事業の中で効果検証を行っていく。</p>	業種	参加者数	飲食店	4	食品小売店	1
業種	参加者数						
飲食店	4						
食品小売店	1						

# 産業環境委員会報告資料

令和5年9月27日

件名	モデル地区におけるプラスチック分別回収事業実施に伴う資源化委託事業者選定にかかるプロポーザルの実施について														
所管部課名	環境部足立清掃事務所														
内容	<p>令和6年4月から予定しているモデル地区におけるプラスチック分別回収モデル事業に伴う中間処理施設について、以下のとおり公募型プロポーザルを実施する。</p> <p><b>1 業務名および業務内容</b></p> <p>(1) 業務名 プラスチック資源化委託</p> <p>(2) 業務内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 搬入作業</li> <li>② 選別・異物除去・圧縮・梱包等</li> <li>③ 指定法人への引渡し</li> </ol> <p><b>2 履行期間</b></p> <p>令和6年4月から令和7年3月31日まで</p> <p><b>3 プロポーザルによる施設選定の利点等</b></p> <p>(1) 収集運搬の効率性に配慮し、区内施設を選定できる。</p> <p>(2) 区内全域展開を見据え、搬入状況の分析や課題の洗い出しへの協力が期待できる。</p> <p>(3) 安定的な資源化実績及び回収作業との連携が期待できる。</p> <p><b>4 プロポーザル選定委員会（5名）</b></p> <p>選定委員の構成（案）</p> <table border="1" data-bbox="454 1451 1369 1870"> <thead> <tr> <th>委員区分</th> <th>人数</th> <th>役職</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">外部委員</td> <td rowspan="2">2</td> <td>東京電機大学 未来科学部 教授</td> </tr> <tr> <td>(選定中)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">区民委員 ※1</td> <td rowspan="2">2</td> <td>足立区町会・自治会連合会役員</td> </tr> <tr> <td>足立区女性団体連合会役員</td> </tr> <tr> <td>区職員 ※2</td> <td>1</td> <td>管理職員</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 日頃からごみの分別やごみ出し等を行っている方を推薦          ※2 別途、女性委員の割合を考慮し選定</p>	委員区分	人数	役職	外部委員	2	東京電機大学 未来科学部 教授	(選定中)	区民委員 ※1	2	足立区町会・自治会連合会役員	足立区女性団体連合会役員	区職員 ※2	1	管理職員
委員区分	人数	役職													
外部委員	2	東京電機大学 未来科学部 教授													
		(選定中)													
区民委員 ※1	2	足立区町会・自治会連合会役員													
		足立区女性団体連合会役員													
区職員 ※2	1	管理職員													

**5 債務負担額**

令和5年度 0千円

令和6年度 84,161千円

※ 契約の更新は2回まで可能

**6 今後のスケジュール（予定）**

令和5年10月 募集・選定方法等決定

10月 参加事業者の募集

12月 最終選定委員会（契約候補事業者の特定）

12月 契約

令和6年 4月 中間処理施設への搬入

**7 その他**

9月補正予算にて債務負担を設定する。

# 産 業 環 境 委 員 会 報 告 資 料

令和5年9月27日

件 名	カラス対策の進捗状況について
所管部課名	環境部足立清掃事務所
内 容	<p>宇都宮大学の特任教授が代表を務め、カラス対策に専門的知見を持つ「株式会社 Crow Lab」と連携して進めているごみ集積所のカラス対策の進捗状況について、次のとおり報告する。</p> <p><b>1 「クロウコントローラー（音声発生機器）」設置による現在までの効果について</b></p> <p>次のような効果がみられている。</p> <p>(1) カラスが、クロウコントローラーの音声を嫌って、集積所に近づかなくなった。</p> <p>(2) 集積所利用者によるごみの出し方が丁寧になった。</p> <p><b>2 「ナッジ理論（行動科学の知見から、望ましい行動をとれるよう人を後押しするアプローチ）」に基づくパウチビラの防鳥ネットへの貼付による現在までの効果について</b></p> <p>(1) パウチビラ（別紙参照）の試験設置について</p> <p>ア 写真型：7月中旬から7ヶ所</p> <p>イ イラスト型：8月下旬から9ヶ所</p> <p>(2) パウチビラを防鳥ネットに貼付したごみ集積所に見られた効果について</p> <p>設置したごみ集積所では、利用者から次のような自発的な工夫が見られている。</p> <p>ア 防鳥ネットの中央部に寄せてごみを置く</p> <p>イ 防鳥ネットの周囲に重い物を乗せる</p> <p><b>3 今後の方針について</b></p> <p>ごみ集積所のカラス被害の減少に向けて、以下の方向で対策を検討する。</p> <p>(1) 被害が目立つ地域に対するクロウコントローラー貸し出し</p> <p>(2) パウチビラの全区展開</p>





見えとるやないカー  
はみ出しとるやんカー  
すき間あるやんカー

このごみ集積所は、  
近隣住民で協力してキレイに  
管理・運営しています。

近隣住民ではない  
他の方のご利用は  
お断りします。



スキが無いカー…  
くちばし、届かんカー…



イ イラスト版



すき間つくらないで欲しいな…

すき間あると  
カラスつくつくんだよね…

この、ごみ集積所は  
近隣住民で協力して  
キレイに管理・運営  
しています。

近隣住民ではない  
他の方のご利用は  
お断りします。

